

建設企業による高校生向け出前講座

実施概要

(日 時) 11月10日(火) 9:55~15:10

(目 的) ①建設産業の仕事内容を知る。
②建設産業の魅力を知る。

(対 象) 2年環境土木科(全員)

(参加企業)

午 前 旭建設((株))、(株)英明公務店、
(株)加藤建設、(株)菅与組、山岡興業(株)

午 後 (株)清水組、ユナイテッド計画(株)、
秋田瀝青建設(株)、(株)住建トレーディング
天喜建設(株)、(株)加藤組

出前講座の様子



高卒求人高水準3.01倍

コロナ禍でも少子化影響

来年3月卒業予定の高校生に対する県内企業の求人倍率は前年同期比0.02倍増の3.01倍(9月末現在)となり、統計をとり始めた1988年以降で2番目の高さだったことが秋田労働局のまとめでわかった。新型コロナウイルスの影響で求人数が減少した業界があったものの、少子化による生徒数の減少などを受けて高水準を維持した。

同局によると、県内の高卒者向けの求人数は、前年同期比12.6%減の3967人。新型コロナウイルス感染拡大で打撃を受けた宿泊・飲食サービス業が59.9%減と落ち込みが目立った。製造業で21.2%減、サービス業で8.6%減など幅広い産業で新規採用を控える動きが出た。

ただ、県内での就職を希望する高校生も同13.2%減の1317人にとどまっ

建設会社の社員に説教を熱心に聞く生徒たち(10日、秋田市の金足農業高校で)



た。今年度の高卒予定者は前年度より459人減る見込みで、同局は「少子化の影響で県内の高校生の人数が減っていることが、高い求人倍率の要因の一つ」と分析している。

一方で、慢性的な人手不足に悩む県内の建設業の求人数は1006人で同1.9%増となった。10日には、建設業界の担当者が金足農業高校(秋田市)に出向いて企業の魅力をアピールする説明会が開かれ、県内11社が参加。同校の2年生32人が説明を受けた。

2年の松沢一輝さん(16)は「建設業界はきついイメージがあったが、意外とそうでもないと分かった。育児休暇を取れる会社も多いと分かり、今後の就職活動に役立てたい」と話していた。

会の主催で、そのうち天喜建設(男鹿市)の担当者は仕事の受注から完成までの仕事の流れを説明し、「地図に残る誇れる仕事です」と魅力をアピール。来年度から週休2日制を取り入れることも紹介し、働きやすさを強調していた。

2020年11月11日 読売新聞社に掲載されました。